

〈自主的努力項目記入書式〉

提携先	株式会社 秋川牧園	記入日	2010/9/6
登録消費材名	鶏肉、鶏肉加工品		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

- ・鶏の処理工程で人が行っていた部分に機械(おおぼらし機、むねぼらし機)を導入し、作業性が向上しました。機械の調整方法を確立し、更に生産効率・品質の向上に努めます。
- ・内臓類の余剰が顕著となり、在庫増加に対し生産羽数の下方調整を実施しました。
(部位別利用バランスの是正、余剰部位の処理が継続した課題)
- ・毛髪混入対策として、冷凍食品工場で着用する帽子を頭巾タイプに切り替え、混入リスクを削減するとともに、より一層の意識向上に努めていきます。
- ・骨の混入対策として、特定の冷凍食品(チキンナゲット等)の製造工程にX線検出器を導入し、混入した骨を検出、除去できるようになりました。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

- ・飼料用米の生産規模が順調に拡大し(約36ヘクタール)、国産鶏種はりまへの10%給餌(後期飼料にもみ米を10%添加)が可能になりました。加えて、鶏糞堆肥を肥料として利用しています(地域循環型生産体系)。
- ・前年度達成できなかった虫の混入クレームを0件にすることができました。
- ・Sマーク品として認定された「フライパンチキン」と「とりがらスープ」の包材(外袋)を無添加フィルムに切り替えました。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

- ・飼料用米については、飼料に添加する必要量が確保できたので、今後は生産性および品質の向上に取り組んでいきます。
- ・異物混入の総数削減に取り組めます。
毛髪と虫の混入はゼロ件に出来ましたが、羽毛の混入がありました。